

## 50 糊付布からの溶出量の電導度法による測定(続報)

東京農工大繊維 森浦 幸子  
お茶の水女子大 松川 哲哉

1 前報(第10年会, No. 53, 家学誌投稿中)では, 糊付布浸漬浴の電導度変化から繊維種別によって糊料の溶出性に差のあることを認めた。本報では前報に引続き糊料としてカルボキシメチルセルロース(CMC), アルギン酸ソーダ(SA)などの電解質ポリマーを用い, これ等の糊料を用いた場合に溶出性の著しいナイロン及び比較的溶出性の劣る木綿とを代表としてとりあげ, 糊料付着量による溶出性について電導度法, アンスロン呈色法, その他により検討を加えた。

2 糊料付着量は, 対繊維重量1%, 2%, 3%, 4%とし, 電導度測定は, 前報と同様に糊付布を蒸留水中に浸漬したときの糊液の電導度を測定し, これより溶出量を求めた。また, 呈色法では, 糊液を60%硫酸溶液となし, アンスロン硫酸試薬を加えて加熱発色させ, 分光光度計により透過率を求める方法により定量を行った。

3 CMC, SAの溶出は, 溶出初期では木綿, ナイロンとも溶出量は付着量にほぼ比例して増加する。溶出がほぼ平衡に達した後にも, ナイロンでは溶出量と付着量とは比例しているが, 木綿では付着量が少い場合には溶出性が低下する。